

農委だよりコンクール 堺市農委だよりを推薦

農業会議ではこのほど、全国農業会議所が実施する「第32回農業委員会だよりコンクール」に推薦する農委だよりの選考委員会を開催。審査の結果、大阪代表として堺市農業委員会の「さかい農委だより」を推薦した。同コンクールは、農委だよりや市町村広報紙を活用し、地域に密着した情報提供活動を通じて、農

土地利用の最適化を推進する農委を表彰するもの。同紙では、農地の貸借促進を図るため借り手を募集している

農地の情報や貸借手続きの流れ、農地賃借料の平均額を掲載することで、貸借の成立に繋がるなど一定の成果を得ている。

さかい農委だより

令和8年 新春号
(第124号)
堺市南区南瓦町3番1号
TEL 072-228-6825(代表)
FAX 072-228-7410

第50回堺市農業祭が開催されました

新年のご挨拶

なにわ農業賞受賞者紹介90

技術と知識の更新を続けて

八尾市・松岡 孝明さん

令和2年に「なにわ農業賞」を受賞した八尾市の松岡孝明さん(60)は、約145坪の農地で八尾えだまめ、八尾若ごぼう、青ネギを主力に、多品目の野菜を生産している。

土木建築系の一般企業を経て24歳で親元就農した松岡さんは、重機を操縦して土壌改良や水路の整備を行うなど、前職の経験を活かしては場環境の維持改善に力を注いでいる。

就農当初は軟弱野菜やズイキも生産していたが、経営継承後は作業効率の向上を目的に作目を若ごぼうとえだまめに集約。その後、雇用を導入したことを契機に、冬場の作業確保と通年収入を見据えて青ネギ栽培を開始し、農地を最大限に活用した安定的な経営を確立してきた。

令和6年からは八尾えだまめの抑制栽培に挑戦。きつ

けは、自らも所属している大阪府農業経営者会議の稲田元正会長からトウモロコシの抑制栽培に取り組んでいると聞き、秋の収穫は害虫防除の労力軽減が見込めるほか、出荷時期の分散で高単価も期待できると考えたことだ。播種時期の検討など試行錯誤を重ねながら、旬の時期と遜色ない品質と単収を目標としている。

また地域での活動にも積極的で、平成14年に「八尾堆肥研究会」を、27年に「JA大阪中河内もみ殻堆肥づくり同好会」を自身が中心となって

選考では、写真やイラストを活用して読みやすさに配慮したレイアウトに加え、農家紹介や農業委員会活動報告など、情報

最新の省力化技術について学ぶ

大阪府農業経営者会議(稲田元正会長)は、昨年12月2日に研究会活動の一環として、会員等12名が、令和7年度に「なにわ農業賞」を受賞した岸和田市の西野朱樹さんと、泉佐野市の神藤秀和さんを訪問した。西野さんのハウスでは、離れた所からでも24時間ハウス内温

度管理や監視できるシステムの構築・運用状況等について、また、神藤さんからは、最新の草刈りロボットの紹介やドローン技術と連携した圃場の省力管理についての説明があった。各々予定していた時間を大幅に超過するなど、参加者にとり興味深い内容であった。(光崎)

設立。鶏糞やもみ殻を活用したエコ堆肥づくりを通じて環境負荷の低減とコスト削減を図り、地域農業者の経営改善に貢献している。

そのほか、担い手の育成にも熱心で、独立就農希望者複数人を正社員雇用して研修を実施。松岡さんは「これまでの経験を生かして若い担い手を育てる場づくりにも取り組みたい。特定の作目に限らず、多品目を実際に作りながら知識と技術を培うことが必要だと考えています」と意欲を語った。

(林佑)



抑制栽培を研究している八尾えだまめ畑で